21　　互いに思いやる愛 　文法　疑問形

は女狐の妖怪であると正体を知らないまま親しい関係になったが、任氏が姿を消してしまった。その後任氏の正体を知った鄭子は、ある日、町で任氏を見かけ呼び止めたが、任氏は背を向けたまま扇で顔を隠した。

任　氏　、「公ハ 知㆑レルニ、①　 。」鄭　子　、「㋐雖㆑知㆑ルト之ヲ、何ゾ ヘント。」対ヘテ、「事　可㆓ベシ 　㆒ス。難㆑シト 施㆓シ 面　目㆒。」鄭　子　、「② フコト㋑如㆑ 是。③㆓相　㆒。」対ヘテ、「安クンゾ敢ヘテ棄テン也。④㆓公　之　**一レ** 　ト。」鄭　子　発㆑シ 、詞　旨　　切ナリ。任　氏　乃チ ⑤㆑ ㆑ 、光　彩　　　㆑ 。

語注

愧恥＝恥じる。

詞旨＝ことば。

光彩豔麗＝任氏の顔立ちが華やかで美しいこと。

【原文】

任　氏　曰、「公　知　之、何　近　焉。」鄭　子　曰、「雖　知　之、何　患。」対　曰、「事　可　愧　恥。難　施　面　目。」鄭　子　曰、「勤　想　如　是。忍　相　棄　乎。」対　曰、「安　敢　棄　也。懼　公　之　見　 悪　耳。」鄭　子　発　誓、詞　旨　益　切。任　氏　乃　廻　眸 去　扇、光　彩　豔　麗　如　初。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

鄭子は、任氏の正体を〔　　　〕っても気にしない。しかし、任氏は鄭子の〔　　　　〕が失われることを、恐れている。鄭子は任氏に〔　　　〕に思いを述べる。

問二　波線部㋐・㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　チェック問題　疑問形

　⑴　次の表を完成させよ。〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 孰レカ（奚） 〜〔スル〕 | | 安クンゾ（悪･焉・奚・寧） 〜〔スル〕 | | 誰カ（孰） 〜〔スル〕 | | 何ヲカ（奚） 〜〔スル〕 | |
| どちらが～か。 |  |  | 安くんぞ～〔する〕 | 誰が～するか。 |  |  | 何をか～〔する〕 |

⑵　次の文の傍線部を現代語訳せよ。 〈2点×2〉

1　今　蛇　 。（蒙求）

2　弟　子　　㆑ ㆑ 。（論語）

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部①を現代語訳せよ。 〈5点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②とはどういうことか。二十字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部③を書き下し文にせよ。 〈5点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（。｣と。）〕

問七　傍線部④の解釈として最も適当なものを選べ。 〈6点〉

ア　あなたの悪い行いを見たくありません。

イ　あなたが他の人から嫌われるのがいやなだけです。

ウ　あなたの悪いうわさを聞いてこわくなりました。

エ　あなたへの憎しみがただ大きくなるばかりです。

〔　　　〕

問八　傍線部⑤で、任氏は鄭子に顔を向けるが、このときの任氏の説明として最も適当なものを選べ。 〈8点〉

ア　自分の正体を知ったうえで熱心に言い寄ってくる鄭子の本心をはかりかねている。

イ　自分の正体を知りつつあえて正体を聞いてくる鄭子をうとましく思っている。

ウ　自分の正体を知った結果、最後には任氏に別れを告げた鄭子に未練を残している。

エ　自分の正体を知りながらも、変わらず好意を示す鄭子に、心が揺らいでいる。

〔　　　〕

【解答】

問一　知　面目　切

問二　㋐＝いえども　㋑＝かくのごとし〈4点×2〉

問三　⑴　〈1点×4〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 孰レカ（奚） 〜〔スル〕 | | 安クンゾ（悪･焉・奚・寧） 〜〔スル〕 | | 誰カ（孰） 〜〔スル〕 | | 何ヲカ（奚） 〜〔スル〕 | |
| どちらが～か。 | 孰れか～︹する︺ | どうして～するか。 | 安くんぞ～〔する〕 | 誰が～するか。 | 誰か～︹する︺ | 何を～するか。 | 何をか～〔する〕 |

⑵　１＝どこにいるか。　２＝誰が学問を好きだと思うか。〈2点×2〉

問四　どうして近寄ってくるのですか。〈5点〉

問五　鄭子が任氏を一心に思い慕うこと。（16字）〈10点〉

問六　相棄つるに忍ぶるか（。」と。）〈5点〉

問七　イ〈6点〉

問八　エ〈8点〉

【現代語訳】

　任氏が言うには、「あなたはこれ〔＝私の正体〕を知っているのに、どうして近寄ってくるのですか。」と。鄭子が言うには、「これを知っていたとして、どうして憂えることがあろうか、いやない。」と。（任氏が）答えて言うには、「このことは当然恥じるべきことです。（任氏は鄭子（公）への）顔向けがしにくくなります。」と。鄭子が言うには、「これほど一心に思っているのだ。相手を見棄てることができるのか。」と。答えて言うには、「どうして（鄭子（公）を）見棄てましょうか、いや見棄てません。あなたが（他の人から）嫌われるのを恐れるだけなのです。」と。（そこで）鄭子は誓いを立て、ことばもますます切実になった。任氏はそこでやっと向きをかえ扇をのけると、（出会った）最初のように光り輝くばかりの美しさだった。

【書き下し文】

はく、「はをれるに、ぞづくや。」と。はく、「をるとも、ぞへん。」と。へてはく、「すべし。しし。」と。はく、「ろにふことくのごとし。つるにぶるか。」と。へてはく、「くんぞへててんや。のまるるをるるのみ。」と。ひをし、なり。ちをらしをれば、のごとし。

【補充問題】

問１　「公知之、何近焉。」（１行目）を、「之」の内容を明らかにして現代語訳せよ。

問２　「事可愧恥。難施面目。」（２～３行目）の説明として最も適当なものを選べ。

ア　妖怪である任氏を愛するのは恥ずべきことなので、世間は鄭子のことを非難するだろうと心配している。

イ　妖怪である任氏と一緒にいるのは恥ずかしいことなので、任氏が鄭子に顔向けができないと鄭子を拒絶している。

ウ　妖怪である任氏が人間の鄭子から言い寄られるのは恥ずべきことであり、任氏が仲間からの評判を気にして鄭子を制している。

エ　妖怪である任氏を人間の鄭子が気にしないのは恥ずかしいことであり、任氏が妖怪としての立場がないことを憂いている。

問３　「詞旨益切」（５行目）とは、どういうことか。最も適当なものを選べ。

ア　鄭子の任氏への言葉が、より熱烈になったということ。

イ　鄭子の任氏への言葉が、かえって少なくなったということ。

ウ　鄭子の言葉が、任氏にとってはより重荷になったということ。

エ　鄭子の言葉が、任氏にますます届くようになったということ。

【補充問題解答】

問１　あなたは妖怪である私の正体を知っているのに、どうして私に近寄ってくるのですか。

問２　イ

問３　ア